

~~~~~  
**鉄鋼技術情報センターだより**  
 ~~~~~

センター新着図書を紹介致します。下記資料の照会先：鉄鋼技術情報センター 電話03-241-1228

書名	著者名	出版年	頁数
鉄鋼二次製品年鑑 昭和 63 年版	(社)鋼材倶楽部	1988	283
高温超電導データブック	新技術開発財団	1988	493
酸化ビスマスに関する研究 (科学技術庁無機材質研究所 研究報告書第 54 号)	科学技術庁無機材質研究所	1988	97
アモルファス・ペロブスカイトに関する研究 (科学技術庁無機材質研究所 研究報告書第 55 号)	〃	1988	97
アルミン酸希土類に関する研究 (科学技術庁無機材質研究所 研究報告書第 56 号)	〃	1988	80
先端技術と伝統技術の融合に関する調査研究 (ケーススタディ：たたら製鉄)	(社)日本機械工業連合会	1988	92
エネルギーの有効利用をめざして —財団法人 省エネルギーセンターの 10 年—	(財)省エネルギーセンター	1988	148
全国各種 団体名鑑 1989 上・下	(株)シバ	1988	3338
高温工学試験研究の現状 1988 年	日本原子力研究所	1988	98
科学技術庁年報 32 昭和 63 年度	科学技術庁	1988	180

— 書 評 —

金属の腐食・防食 Q & A

コロージョン 110 番

腐食防食協会編

腐食の現れ方は千差万別で、豊橋技術科学大学の講義では、それらを一応「腐食の7変化」と称し、七つの型に分類して教えている。しかし、本書によれば、実際はとともそのように簡単でないことがよくわかる。本書では、110の事例を挙げ、腐食環境、防食対象物、材料の3本の糸を織りなす形で腐食事例を説明し、更に、防食法、モニタリング、腐食の基礎的考え方についても平易な説明がなされている。数多い腐食の教科書では、腐食の原理等理論的な事項の説明はされているが、実際にどのような所でどのような腐食が起こっているかといった、事例の説明は不十分である。一方、腐食事例を集めたハンドブック的な本では、おのおのの腐食機構の説明で不十分なものが多い。本書は、その両者の不十分な

所を補っていると言える。その説明方法が、まず、読者に問いかけて考えさせた後、解説するという方法をとっている。一種の謎解きの面白さがあり、楽しく読むことができる。腐食の原理に関し、ある程度の理解を持っている者でも、いざ、本書の実例を前にすると戸惑いを感じ、解説を見て「おや、なるほど」と認識を新たにさせられることが多い。また、中には、常識では考えにくいような事例の紹介もあり、腐食、防食の専門家にとつても役立つものと思われる。特に、塗覆装に関する事例も多く、一見大丈夫と思われる表面処理が、実は、不十分であつた例や、塗装の際の注意事項等の細かな説明があり、鉄鋼の表面処理技術者にとっては必読の書と言えよう。上述の腐食の基礎的考え方の説明では、電気化学的基礎のない者にもわかつた気にさせるようなアナロジーもユニークである。また、裏表紙につけてある材料・環境・腐食形態の早見表も、コロージョンを第一専門としない現場の技術者がアプローチしやすい、有用な工夫である。

(川上正博)

A 5判 186 ページ 定価 3500 円

1988 年 9 月 丸善(株) 発行